

産業動物防疫コンソーシアム強化事業

2018年12月 産業動物防疫に関する研究センターを持つ4大学で発足  
(宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター、東京農工大学  
国際家畜感染症防疫研究教育センター、鹿児島大学越境  
性動物疾病制御研究センター、鳥取大学鳥由来人獣共通  
感染症疫学研究センター)



2019年 8月 北海道大学、麻布大学、岐阜大学の加入  
2020年 8月 酪農学園大学の加入

推進委員会の年毎の開催

各大学持ち回りによるシンポジウムの開催

2018年度 宮崎大学  
2019年度 東京農工大学  
2020年度 鹿児島大学  
2021年度 鳥取大学(予定)



サイエンスキャンプの様子

人材育成

サイエンスキャンプの開催@宮崎大学  
ミャンマーの口蹄疫ワクチン開発プロジェクト視察(2020年2月 COVID-19発生に伴い中止)

業績



大学連携による家畜防疫に関する知の集積事業  
2020~2021 予算獲得

「次世代シーケンス(NGS)を用いた豚糞便中のウイルス検出:新しいBastrovirus遺伝子の発見」長井ら、2020年度日本獣医学学会(山口大学)発表

Metagenomic identification, sequencing, and genome analysis of porcine hepe-astroviruses (bastroviruses) in porcine feces in Japan. (Nagai et al., Infection, Genetics and Evolution, 2020)

本コンソーシアムへ加入しませんか?

【お問い合わせ先】

宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター

住所: 〒889-2192 宮崎市学園木花台西1-1  
TEL・FAX: 0985-58-7674  
e-mail: cadic@cc.miyazaki-u.ac.jp

8大学産業動物防疫コンソーシアム



口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザの発生を受け、各獣医系大学に家畜感染症研究機関が設立されてきました。  
2018年に宮崎大学が声をかけ、各機関の特色を生かした重要家畜感染症の共同研究・教育体制の構築を目的とした産業動物防疫コンソーシアムを組織しました。このコンソーシアム活動を通して、家畜防疫に不可欠な応用的新技術の開発や持続的畜産資源確保に貢献しうる研究をオールジャパンで展開することを目指しています。  
(8大学、2020年現在)

大学連携による家畜防疫に関する知の集積事業 2020-2021

1. 大学連携による家畜防疫に関する知の集積推進委員会開催
2. 大学の枠を超えた「産業動物防疫コンソーシアム」の理解を求め、他大学への本事業ネットワークの拡大
3. 産業動物防疫コンソーシアムシンポジウムの開催
4. 各大学が蓄積している防疫活動に関する情報を集約・配信するシステムの構築



口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ防疫の経験をもとに、産業動物防疫に関する教育・研究の拠点として、国内外の畜産基盤安定化を目指します。

**2010年**  
**口蹄疫の発生**

**産業動物感染症制御の先端研究**

牛伝染性リンパ腫清浄化および清浄性維持システム“宮崎メソッド”  
バイオリソースの集積と共有

**畜産食品生産の技術開発**

食鳥肉の病原微生物制御技術  
自然素材を用いた畜舎環境浄化

**防疫対策リーダーとなるグローバル人材育成**

コースワーク：検疫診断 / 統計分析学 / 防疫対策  
→大学院生や社会人を対象とした認定制度

**防疫知識の普及活動を通じた地域貢献と国際貢献**

公募型共同研究プロジェクト（全国型・宮崎型）  
口蹄疫防疫対策上級専門教育養成コース

**CADICが取り組む産業動物防疫国際コンソーシアム事業**

地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)  
世界の台所タイにおける家畜生産と食品安全に関する  
新技術導入による畜産革命の推進

各大学の  
特色ある  
取り組み

**家畜防疫への取り組み**



確実な病原体検出が  
最良の防疫

**病原体網羅的PCR(dembo-PCRシリーズ)の  
開発と運用**

- ・牛(dembo)、豚(dembo)、犬猫(demCAFE)
- ・検出できる病原体数は約90
- ・国内外(麻布大学・タイ)で検査法として活用
- ・コスモバイオからキット販売
- ・現在、鶏用を開発中(SATREPS事業)

**次世代シーケンサーの新しい方法を開発**

- ・SureSelect-NGS法
- ・Multiplex-NGS法

**家畜から未知のウイルスを発見する事業**

- ・8年間で約40種類の新規ウイルスを発見

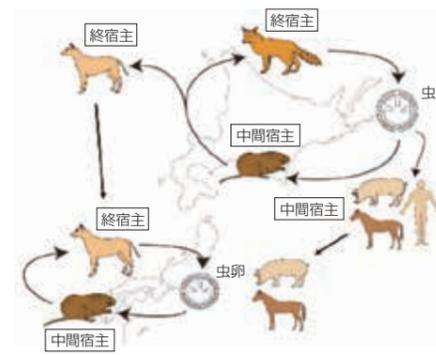
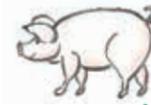


図1. エキノコックスの生活環と北海道外への拡散

**取組内容(エキノコックス対策→産業動物への伝播制御)**

- 終宿主(感染源)対策による環境虫卵汚染の低減  
駆虫薬入りベイト散布、対策評価ツールの開発、etc.
- 集団遺伝学的手法を用いた本州への拡散監視ツールの開発  
全長Mt遺伝子配列、マイクロサテライト、MIG-seq法
- 中間宿主における感染様式の解明  
循環核酸の特定・機能解析、感受性規程因子の探索

**取組内容(節足動物媒介性住血病原体)**

- 産業動物における住血原虫・リケッチアの網羅的探索  
流行種の特定、疫学解析
- マダニ共生細菌  
生体維持における機能解析、新規マダニ対策への応用

**取組内容(その他)**

- 馬の円虫類の分子同定法の開発
- 教育提携民間ヒツジ牧場における寄生虫対策

各大学の  
特色ある  
取り組み

- 全国から入院や実習の目的のため、産業動物臨床教育センター(LAVEC)に牛、めん羊、山羊が搬入されます。この水際防疫のため、Dembo PCRを実施し、必要に応じた対策を実施しています。
- このような防疫システムが全国に普及するよう、啓蒙に務めています。



本センターは平成17年4月に、**高病原性鳥インフルエンザ**等の鳥類から人に感染する人獣共通感染症への対策を確立する目的で設置されました。特に高病原性鳥インフルエンザについては、国内での出現予測、病原体の生態、病原性、遺伝子性状の解析などを行い、新たな流行防止対策の確立を図り、**国内危機管理体制確立**に寄与することを目的としています。

**研究成果**

- 伝播者の特定=感染経路の確立
- ウイルス、細菌の感染症・保持性の解明
- 新たな防疫対策の技術開発(抗ウイルス剤など)
- 国際サーベイランス体制の確立

**社会貢献**

- 病原体侵入防止最善策を全国に通達
- 感染病流行の警戒警報の発令
- 風評被害による経済混乱の除去

**現在進行中の家畜防疫関連プロジェクト**

- ①農林水産省戦略的監視・診断体制整備推進委託事業  
「家畜伝染病診断体制強化・整備」
- ②農林水産省戦略的プロジェクト  
「家畜の伝染病の国内侵入と野生動物由来リスクの管理技術の開発」
- ③環境研究総合推進費プロジェクト  
「希少鳥類における鳥インフルエンザウイルス感染対策の確立」

**TADセンターにおける家畜防疫に関連する取り組み**

- 養鶏場の防疫と衛生管理に関する研究
- 野鳥におけるインフルエンザの疫学調査
- 高病原性鳥インフルエンザの宿主防御機構および創薬に関する研究
- 鶏およびカモの未知病原体の探索研究

- 養豚場における防疫体制の構築
- 豚ウイルス疾患の防除に関する研究
- 豚繁殖呼吸障害症候群ウイルスの抗原性および病原因子に関する研究
- 豚糞便中の未知病原体の探索研究
- 豚インフルエンザの疫学および診断法の確立

- 野生動物および展示動物における病原微生物調査

- 口蹄疫・豚コレラウイルスの制御に関する研究
- 狂犬病ウイルスの基礎的研究
- 感染動物モデルの確立
- 動物のSFTSの現状把握と診断法確立

ジーファは、岐阜県と連携し、家畜衛生教育と研究を推進することを目的とし、2015年に設置されました。

2017年に、岐阜大学キャンパス内に、岐阜県中央家畜保健衛生所が移転し、その3階にGeFAHの研究室、実習室などが整備され、連携が強化されました。

- 家畜衛生の**教育**
- 家畜疾病等の**学術研究**
- 家畜の**防疫・保健衛生(地域貢献)**

教育面では、家畜保健衛生所職員による、獣医法規の講義や、動物衛生学実習、獣医学導入演習、インターンシップなどで、岐阜県との教育の連携が行われ、大学のオープンキャンパスでは、高校生向けに家畜衛生に興味を持ってもらえるような展示ブースを設置しています。

研究面では、岐阜県と共同研究を実施したり、県からの委託事業を実施しています。

地域貢献面では、地域の女子大学の食物栄養学科学学生に生産現場の実習をしたり、県と合同で高病原性鳥インフルエンザ防疫実地演習を開催したり、豚熱発生時には疫学調査チームのメンバーとして協力したり、殺処分・防疫措置に協力したりしました。



**生産動物防疫研究体制**  
一産業動物防疫コンソーシアム参加教員を中心に一

